



県と沿線6市の協議を提案



安倍晋三自民党総裁に、新鎌ヶ谷駅で北総鉄道問題を説明

県の総合防災拠点 県下5市が候補地

滝田議員 県は本年3月「千葉県総合防災拠点」の候補地に関する情報提供の照会を行ったところ、印西市を含む5市から誘致希望の回答があったとのこと

そのための消防学校の候補地については、必要な面積や利用対象者への交通アクセスなど、県民の防災教育施設の事業内容の検討や防災支援ネットワークのゾーンごとの広域防災拠点施設の必要な面積等の調査を踏まえて検討し、決定してまいります。

防災危機管理部長 この検討に当たっては、(1)ボランティアや企業関係者を含む県民を対象とする「防災教育施設」である防災センターとの関連性の検討(2)防災

支援ネットワークの広域防災拠点の一つとして位置づけられることから、その検討内容の反映が必要になると考えています。

14回目の質問

滝田議員 私は、県議会議員に当選して以来、一貫して北総鉄道の運賃問題に取り組んできました。北総鉄道の問題をこの場で取り上げさせていただくのは、予算委員会を含め14回目となります。

この間、沿線住民の悲願だった運賃値下げも実現し、北総鉄道の経営状況も毎期黒字を計上し、今年度中には長年の懸案だった債務超過が解消されると聞いており、経営の安定化に向けた大きな一歩だと考えます。

こうした変化の中で、平成27年度以降の運賃値下げの扱いについては、早急に新たなステージに向けた検討を

進める必要があると考えます。そこで伺います。北総鉄道の運賃値下げについて、現行の支援期間が終了する平成27年度以降を見据えた、関係者による検討状況はどうか。

総合企画部長 今年度は支援開始から3年目となることから、改めて支援の効果や北総鉄道の経営状況などについて、印西市・白井市をはじめとする沿線6市とともに検証しています。

死活的に重要な都心直結線

滝田議員 成田空港と都心を結ぶ、いわゆる都心直結線の整備は、成田空港がアジアにおける主要な国際空港として生き残るためには、絶対必要な路線であるだけでなく、21世紀の本県にとっても、死活的に重要な基盤整備と考えます。

また、印西市をはじめとする北総地域が元気になる、それが千葉県、さらには日本を元気にすることにつながるといって、まさに連立方程式となるよう、その推進を強く望むものであります。そこで伺います。都心直結線の整備について、県の考えはどうか。

総合企画部長 国は東京

の都心機能を増進し、アジアの拠点としての競争力を高めるため、都心と成田・羽田両空港を直結する鉄道アクセスとして「都心直結線」を検討しています。

この「都心直結線」の整備により、東京駅と成田空港が30分で結ばれることになり、成田空港へのアクセスや、千葉ニュータウンを中心とする県北西部地域の交通利便性の向上などが期待されています。

県としては、引き続き国に対し、調査・検討を進めるよう要望するとともに、国の調査に協力していきたく考えています。

北千葉道路への取り組み

滝田議員

北千葉道路の市川市から鎌ヶ谷市間の現在の取り組み状況はどうか。

県土整備部長 北千葉道路は、成田空港へのアクセス強化や沿線地域の相互交通など大変重要な道路です。このうち、市川市から鎌ヶ谷市までの9.5キロは、起点となる外環道の整備が鋭意進められる中、早期に計画の具体化を図る必要が

あると考えております。

このため、県では国と連携し、道路整備の必要性や整備効果の検討を行うとともに、地域のまちづくり計画と整合した道路の構造などについて検討を進めているところでです。

また、本年3月には、計画の策定に向け、必要な事

県道八千代宗像線の進捗

滝田議員 県道八千代宗像線の印西市地域の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道八千代宗像線の印西市岩戸地先3.3キロについては、幅員が狭く線形が不良なことから、地域住民の安全確保を図るため、バイパス整備を進めています。

現在の進捗状況ですが、



自民党政調会で埼玉県中央防災基地を視察

項を沿線市などと協議・調整することを目的に「北千葉道路連絡調整会議」を設置したところです。

今後、これらの検討を一層進め、早期に国による事業化が図られるよう、沿線市などとともに引き続き国へ働きかけてまいります。

用地については、面積ベースで96%に達したところであり、工事についても、用地取得済みの箇所において、文化財調査や軟弱地盤対策を実施しているところです。

今後とも、地元関係者の協力を得ながら、残る用地の取得を進め、事業の進捗に努めてまいります。